

## 岩手銀行研修所 I-PORT

今回は、岩手山を望む広大な敷地内にそびえる「I-PORT」を訪ねました。I-PORTは、岩手銀行が誇る一大研修拠点です。こちらの研修所には、人材育成を下支えする快適な学びの空間を提供したいという、人事部人材開発室をはじめ関係者の方々の思いが込められています。

岩手銀行研修所の愛称は、「I-PORT」。「I」は「岩手銀行、自分 (I)、知性 (intelligence)」の頭文字、「PORT」は研修所を「港」に例えて、「知識の補給基地、明日からの業務活動への船出」という意味が込められています。

このたび、早く取材に応じていただきましたのは、人事部人材開発室室長の板澤貴典さん、同室副調査役の久慈剛士さん、同室の小笠原沙織さん、そして研修所を心地よくきれいに管理されている人事部の小山久志さん、小山江美子さんです。



▲ホテルのロビーを思わせる1Fフロアにて、人事部人材開発室の皆さん（左から久慈剛士さん、小山江美子さん、板澤貴典さん、小山久志さん、小笠原沙織さん）

### 【研修所の特徴・仕様】

竣工：平成10年6月、収容人数：最大76名  
 教室数：8室（大研修室1室、中研修室1室、小研修室4室、特別研修室2室）  
 宿泊室数：40室（うち講師用2室）

### 【立地・アクセス】

IGRいわて銀河鉄道滝沢駅より車5分  
 岩手銀行本店より車30分

### ●目的に合わせた研修方式の工夫

—まず、この研修所ではどのような研修が行われていますか。

行内研修としては、業務別研修会が17種、階層別研修会が11種ありますが、このうち宿泊を伴うものを本研修所で実施しています。その他研修は本店での開催あるいはテレビ会議システムを用いて実施しています。

より研修効果が高まるよう、各研修方式の利点を活かし、基本的知識の習得を目的とする研修は繰り返し視聴が可能なテレビ会議システムで、実習や自分の考えをアウトプットするような性質の研修は、研修所での集合研修としています。

集合研修では、ディスカッションなどを交えたグループ作業を中心に行いますが、意見を交わしながら行員同士で協力関係を築くことにもつながっているようです。県内全域から集まるので、研修に一所懸命取り組むのはもちろん、行員同士で交流を深めて欲しいと期待しています。



▲「IFP研修会」の様子。研修を修了し、税務2級、FP技能検定2級に合格すると行内資格が認定されます。

## ●地域とのコミュニケーションツール

——研修以外ではどのように利用されていますか。

お取引先の次世代を担う若手経営者を対象に「いわぎん次世代経営塾」という集まりを開催しており、年間10回ほど実施していますが、そのうち2回はこの研修所を利用し、若手経営者が集う貴重な機会となっています。平成23年度から続いており、毎回20～30名の方が参加されています。

また、隣接するグラウンド・野球場を地域の行事等に貸し出しており、地域住民のコミュニケーションの場としても活用しています。



▲岩手銀行研修所 I-PORT。  
グラウンド・野球場が隣接しています。

## ●行員一人ひとりが成長できる環境づくり

——どのような人材育成方針にもとづいて研修を実施していますか。

行員一人ひとりの成長は当行の企業力向上につながるものであり、経営理念である「地域社会の発展に貢献する」という点についても、人材育成なくしては実現できないと考えます。行員一人ひとりを最も重要な財産、つまり「人財」と位置づけ、積極的に人材育成を行っています。

たとえば、計画的な職場内教育（OJT）や、各種研修カリキュラムの作成のほか、自己啓発支援制度、公募制による研修への派遣等を実施し、行員が金融のプロフェッショナルへと成長できる機会・環境を提供しています。



▲岩手山を眺めることができる自慢の大浴場。  
研修生の疲れを癒しています。

近年は、お客様のニーズ・課題を解決に導くようなソリューション営業が求められており、それを実現する高い意識やスキルをもった人材の育成に積極的に取り組んでいます。具体的には、中小企業診断士、証券アナリスト、FP技能検定1級の受験対策講座を開設し、公募制で受講者を募っています。中小企業診断士については、先般行われた第1次試験の合格者も出ており、少しずつ取り組みの成果が出てきています。また、「事業性評価」が地方銀行にとって重要なテーマとなっているので、目利き力強化という観点から研修会・休日セミナーを積極的に開催しています。

## ●合格率を高めるために

——最後に、銀行業務検定試験の取組みについてお聞かせください。

銀行員として必要な知識を全国レベルで客観的に測ることができる機会ですので、積極的に受験を促しています。税務2級は、行内資格（IFP：いわぎんファイナンシャルプランナー）の認定要件としても採用しており、行内の制度とリンクさせながら自己啓発の意識を高めています。

行内での銀行業務検定試験への受験意識は高いほうだと思いますが、合格率の向上が課題です。合格へのモチベーションをより高めるため、合格者に対する奨励金制度を設けていますが、今後は受験対策講座の開催も検討しているところです。

（お忙しいなか、取材にご協力いただきました人事部人材開発室の皆様には心から感謝申し上げます）